



◆ “つくば市” に地球環境・気候研究推進室の発足

－気象業務の研究技術開発業務への支援にむけて－

皆様ご承知の通り、(一財)気象業務支援センター(以下、「センター」と呼ぶ)は、気象業務の支援を主務として業務を遂行しています。国民の生命や財産を脅かす自然災害から社会を守るための防災気象情報が、国民の皆様から常に信頼され利用されるためには、気象業務が常に最新の科学技術を基盤としたものでなければなりません。このため、センターでは気象業務に係わる技術開発研究業務への支援も視野に入れた業務を進めつつあります。本稿では、その最近の活動状況についてご紹介します。

文部科学省では、進行しつつある地球温暖化の予測精度の高度化と、緩和策並びに適応策の策定に気候モデルの高度化を目指して、平成29年度より5年間の予定で「統合的気候モデル高度化研究プログラム」を立ち上げました。当センターでは、このうち、高精度かつ高分解能の統合型気候モデルの開発、複数の排出シナリオに基づく気候予測とそのメカニズム解明、およびそれら成果を用いた国際貢献を目標とするテーマC課題(課題代表:高叢出気象研究所環境・応用気象研究部長)の主管機関として、平成29年5月22日に文部科学省との契約を取り結びました。本研究課題は、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の評価報告書および気象庁の地球温暖化予測情報の取りまとめ、国内の広範な分野での温暖化適応策の策定、さらには温暖化適応策の国際貢献への大きな寄与が期待されています。

センターでは、温暖化問題に関するこれほどの規模の研究支援業務は初めての事でもあり、円滑な業務遂行を図るため、あらたに気象研究所内に地球環境・気候研究推進室を設置し、研究推進業務を平成29年5月22日より開始いたしました。

我が国では温暖化関連の大型の科学技術プロジェクトは、主に文部科学省が予算等を取りまとめ、省庁・大学・研究機関等と連携して推進しています。これまで、このような大型プロジェクトについて気象研究所では研究機関・大学の協力を得て実施してきましたが、本プロジェクトでは当センターの役割がより研究の推進に効果的・効率的に実施できることから、当センターが主管機関となる事により、研究業務上、以下のような研究推進上の貢献を果たすことが期待されています。

- ・研究推進に必要な物品購入等の契約手続きの迅速化など、よりプロジェクトの成果推進に特化した業務支援が可能となる。
- ・研究開発現場に推進室を設置し、センターの常勤職員を配置することにより、気象研究所との連携・協力を強固なものにすることにより、研究推進上ならびに事務処理上の速やかな課題整理が可能となり、意思決定過程も迅速化できる。
- ・プロジェクトの資金拠出の政府方針に従い、研究推進体制の強化や戦略的な支出など、研究推進の効果的な推進のために活用することが可能となる。

事務手続きの効率化・合理化については、これまでは、例えば日々の研究に使用されるコピー紙やインクなどの消耗品の入荷に何ヶ月もかかっていたのが、一般財団としての民間事業運営の強みを生かして場合によっては翌日に現場に届けられるなど、業務推進上大きな効果が期待されます。

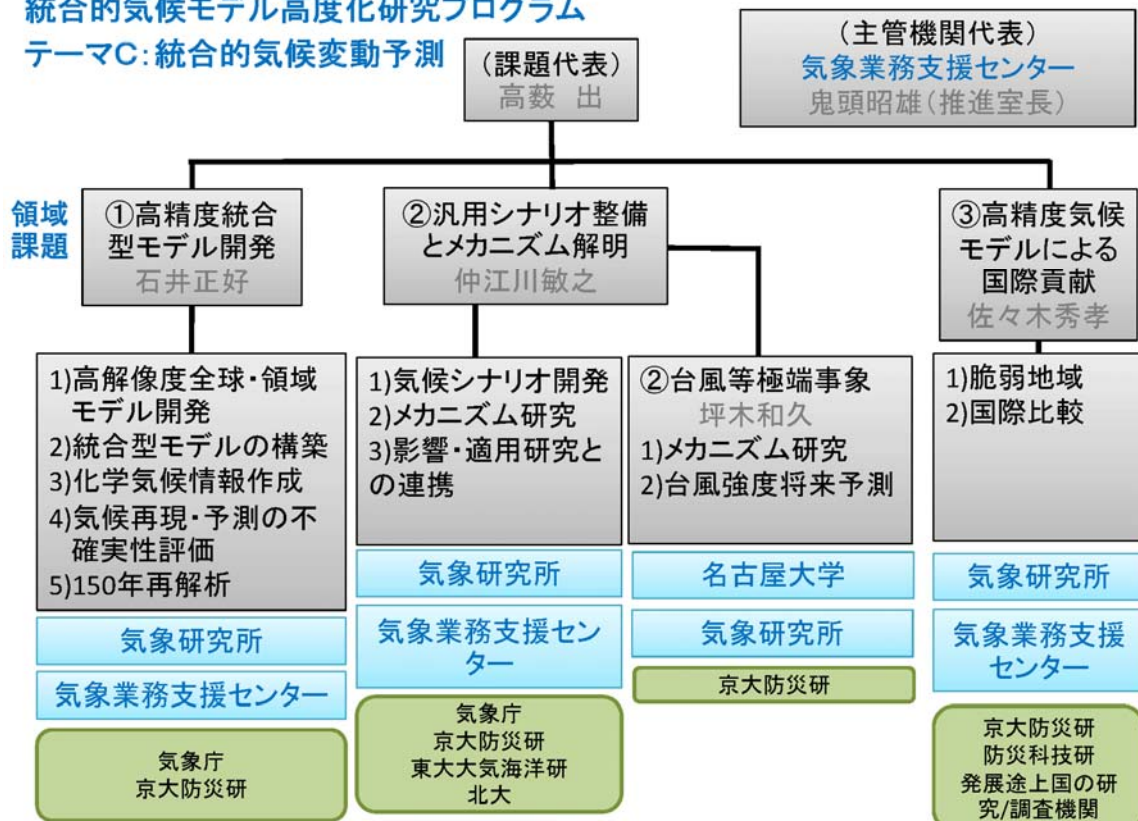
本プログラムが、当初の目的に従って順調に推進され多くの成果を挙げることにより、今後当センターが支援部門となり気象研究所の研究等、民間の強みを生かして、多様な形で気象業務に資する技術開発研究の発展的展開も期待されます。

当センターでは、この統合プログラム・テーマCに加え、同じく文科省の地球温暖化適応策プロジェクトであるSI-CAT(気候変動適応技術社会実装プログラム、平成27～31年度)にも当センターの職員が、subPD(副プログラムディレクター)として参加し、研究推進業務を行っています。

このように当センターにおける研究推進業務は未だ始まったばかりとは言え、今後の発展の可能性を秘めたテーマと捉えています。今後とも、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

統合的気候モデル高度化研究プログラム

テーマC: 統合的気候変動予測



(地球環境・気候研究推進室)